

(1)の解答

(大形の魚) ※「マグロ」「カツオ」などでも正解

(2)の解答例

生き物が「食べる・食べられる」という関係をくり返すたびに、からだの中にたくさんの有害な物質がたまり、大形の魚に集まるから。

ここがポイント!

「食べる・食べられる」の関係のいちばん上にいる大形の魚に有害物質が集まることが書けていればOK。
「なぜ～」と聞かれているので、「～(だ)から」と答えることにも注意!

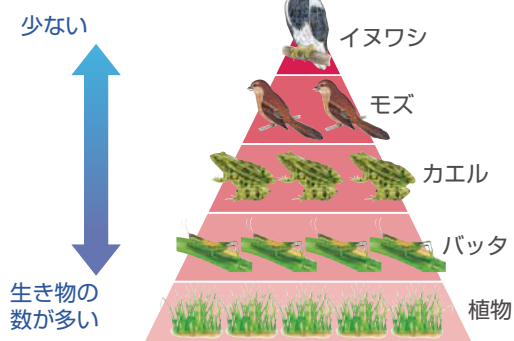
(3)の解答例

有害な物質を多くふくむマグロのような大形の魚を人間は食べる。だから、大形の魚をたくさん食べる人間には有害な物質がたまり、悪いえいしょうが出ると思う。

ここがポイント!

人間が大形の魚を食べることに気づくかどうかポイント。有害物質の集まった魚を人間がたくさん食べると当然悪い影響がある。

陸上の生き物のつながりの例



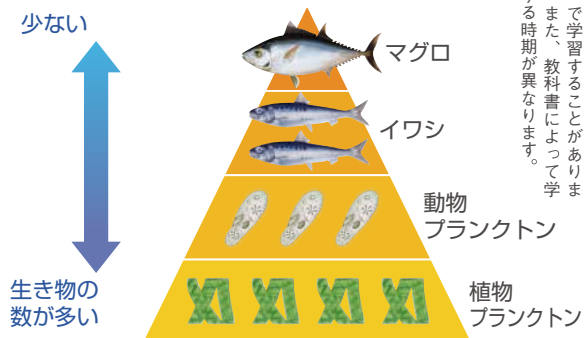
生き物には「食べる・食べられる」という生き物の間のつながりがあります。このつながりを「食物連鎖」といいます。左の図で表すと、食べられる動物の数は食べる動物よりも常に多く、一番下は必ず植物になります。

食物連鎖は陸上の生き物だけではなく、水中の生き物の間にも見られます。その頂点にいるのが大形動物や人間です。ですから、人間が森林破壊をし、植物の命を奪うことは、自らの食料を自らの

食物連鎖と生物濃縮

覚えておこう!

水中の生き物のつながりの例



※食物連鎖は6年生の(発展)で学習することがあります。また、教科書によって学習する時期が異なります。

手で奪っていることでもあるのです。さらに、人間が農薬をまいたり、海に汚染物質を流すことにより、自然に分解されにくい化学物質を生きた物が順番に摂取します。その結果、汚染物質が大形動物になればなるほど多く蓄積される結果になります。これを生物濃縮といいます。自然の一部である人間にとつて、かけがえない自然について親子でいろいろ調べてみると驚くべき発見に出合えるはずです。